

J F M A 情報

Japan Futon Manufacturers Association

日本ふとん製造協同組合

JFMA アドレス <http://www.futon.or.jp/>

一般財団法人日本ふとん協会

平成 29 年 10 月 1 日 No.133

J F M A 第 59 回通常総会を開催

—専務理事に只野悟氏を選出—

日本ふとん製造協同組合は 5 月 18 日、東京・千代田区のアルカディア市ヶ谷で第 59 回通常総会を開催し、平成 28 年度事業報告、決算報告を原案通り承認すると共に、平成 29 年度事業計画、収支予算の審議を行い原案通り承認可決されました。また、理事の補欠選挙においては、事務局の只野悟氏を選出され、その後開催の理事会において専務理事に選任され就任致しました。なお、伊勢沢一男理事が任期途中で辞任されました。

総会はず、浅黄理事長が、現在組合員数の減少が著しく、我々を取り巻く環境が厳しいといわざるを得ない。これは数年前から同じような状況が続いている。本組合としても今いろいろな問題を抱えているところではありますが、是非皆様のお知恵を拝借して、この組合がかつての力のある、そして消費者に喜んでいただけるような製品を作り出す、そうした組合にしていきたいと考えているのでご協力願うものです。我々も新しいやり方、新しい組合の発展を目指していくつもりです。今総会を機に今後の発展に資していきたいので宜しくお話ししたいと挨拶されました。

このあと、浅黄理事長を議長に選出し所定の議案を審議しすべて原案通り承認可決されました。

総会は、奥中副理事長の閉会の辞で滞りなく終了し、会場を移し懇親パーティーが開かれました。

理事長の写真

【役員の補欠選挙について】

専務理事が空席のための補欠選挙が行われ、次の方が理事に選出されました。

専務理事 只野 悟氏 (事務局)

辞任された理事 伊勢沢一男氏 (エビー株)

目次

J F M A 第 59 回通常総会を開催	1~2
第 15 回 J F M A 研修会	2~4
第 15 次 技能実習生 22 名入国	5
羽毛ふとんの原産地表示について	6~7
統計資料	
繊維統計・貿易統計	8

【平成29年度事業について】

1. 指導教育事業について

組合員の事業に関する経営、技術の改善向上を図るため指導教育事業を行う。

- (1) 機関紙「JFMA情報」の発行（年3回）
- (2) 視察・研修会の開催（平成29年7月13日（木）・14日（金））

〔一般財団法人日本ふとん協会と共同で、札幌市で開催〕

- (3) その他必要に応じ懇談会あるいは講演会の開催

2. 需要振興事業

- (1) 日本製ラベルの発行
- (2) 10月10日の「ふとんの日」に関する事業

3. JFMA 共同ブランド「まるごとジャパン」事業

- (1) 「まるごとジャパン」の普及活動
- (2) 「まるごとジャパン」スタンダード・バージョンラベルの発行

4. 調査研究事業

一般財団法人日本ふとん協会と共同でふとん用原料の調査及び視察を行う。

5. 委員会、部会の活動

- (1) 経営情報委員会事業
 - ①「JFMA情報」の編集
 - ②羊毛ふとんの生産実績調査

②その他諸情報及び資料等の提供

(2) 品質管理部会事業

- ①品質管理及び品質基準に係わる調査・研究
- ②その他必要な事業

(3) ふとん部会事業

- ①ふとんに関する啓発活動

(4) 国際交流部会事業

- ①第15次外国人技能実習生受入れ事業
- ②海外との交流事業

6. 福利厚生について

- (1) 火災により損害を受けた組合員に対し、お見舞金を呈上する。
- (2) 組合員に対して、内規による弔慰金を呈上する。

7. 経済事業について

- (1) わた見本袋等の斡旋を行う。
- (2) その他必要に応じ斡旋等を行う。

8. 団体折衝並びに団体協約について

組合員の経済的地位向上のため必要がある場合は、関係諸組合と団体折衝並びに団体協約の締結等を行う。

9. その他の附帯事業について

その他必要に応じ実施する。

第15回 JFMA研修会

JFMA 経営情報委員 浅黄 利洋

一般財団法人日本ふとん協会と日本ふとん製造協同組合が主催する合同JFMA研修会が

7月13日、14日の2日間、北海道札幌市で開催しました。7月の札幌市は真夏日が連続で続いており、当日も34℃の猛暑で涼しさを期待して来られた組合員の方々は大変驚いていました。参加された組合企業数は16社で総数25名の方が集まりました。今回の研修会1日目は、まくら株

式会社代表取締役社長の河元智行氏の講義と、2日目は北海道コカ・コーラボトリング株式会社様の工場視察が主な内容になります。

初めに浅黄理事長からの挨拶があり、まくら株式会社河元社長の講義が始まりました。

今回で4回連続のオファーを快くお受けいただき、さらに1回目の講義から4回までの話がしっかりと連動性があり、新しい展開もあり毎回参加し

ている組合員の方や今回初の組合員の方も真剣に耳を傾けて頂き、大変貴重な時間になったかと思えます。

今回のテーマは「寝具業界は、ブランディング戦略が他の業種や業態に比べて進化してない。だからこそ、まだまだチャンスはある。」をキーワードにして講義が進みました。



ホテル札幌ガーデンパレス会議場

「自社の過去、現在、未来感」「ブランディングで五感を刺激せよ」「今までの会社、経営者の生い立ちをストーリーに」「会社のロゴマークを作成し、会社のカラーを決定する」「自社のとんがり（特化した）の発見」等々、色々なキーワードで話していただきました。

私個人の感想は、河元社長の頭と心の思いが具現化しているのがまくら株式会社のECショップだろうと思えます。買う人目線の商品群にあればダメ、これにはダメはなくお客様に自由な選択肢があり、それを親切、丁寧に説明して、信用、信頼をいただくビジネスモデルになっているのかと思えます。現在ほとんどの組合員の方々は製造卸業が主なので中々一般消費者に近づいて販売するのが難しく、商売上思い悩まれている方々が多いかと思われまます。そのヒントを今回の講義で見つけれられたでしょうか。後半には昨年も実施した参加企業限定「寝具ブランド価値 格付けランキングTOP18」を河元社長の審査で発表しました。100点満点で採点項目は13項目あり、例えば「HP、ストーリー、ロゴ、強みコンテンツ、人」などなど。最高得点社は80点、最低得点社は8点でした。昨年参加した組合員の方々は流石に前回よりも点数が上がっていました。皆さん1年間

努力・工夫されたのかと思えます。質疑応答もあり、河元社長の講義も終わり1日目の研修は無事終わりました。その後は白崎繊維工業株式会社白崎専務のご厚意で、別会場に移動して懇親会スタートしました。初対面の方々も沢山いましたので名刺交換や、自己紹介や、仕事の話など大いに盛り上がり親交を深めました。



懇親会会場

研修2日目はホテルからマイクロバスに乗って札幌市内の北海道コカ・コーラボトリング株式会社様の工場視察に向かいました。案内係の方にまずは最先端の自動販売機の説明を受けました。節電機能や、電光文字盤があり、北海道限定品もあり、震災の時は販売機の飲み物が無料で飲めるようになる優れものでした。工場内に入り、缶ラインとペットラインがあり私たちは缶ラインを見学しました。工場の中はほとんど無人で、作業は全部ロボットが作業しています。缶コーヒーが1分間で約1200缶が製造されるラインのスピード感がスムーズで、摩擦防止に必ず水が流れていました。在庫保管もオートメーション化されていて、どこに何が置いてあるかは一目瞭然になっているそうです。こちらの工場で製造されている飲み物は北海道で販売されているものばかりで、工場在庫で約2週間分だということです。展示室に移動したら、懐かしいコーラの自動販売機が何台もありました。好きな飲み物を1本ずつ頂きながらコカ・コーラの歴史DVDを視聴しました。やはりコカ・コーラも紆余曲折がありながらチャレンジをして、新商品、北海道限定品、新規格、新ブランドを発表して時代の先駆者になり業界リーダーになっているように思われます。参考になること

がたくさんありました。

2日間という短い時間でしたが、内容の濃い時間になり参加された組合員の方々もかなり考えさせられた時間だと思います。【やりたい事が有るならまずはやってみよう】。我々にはまだまだチャンスは有りますと河元社長にもおっしゃっていただきました。来年には皆さんがどれくらい前に進めたか、新しい組合員さんたちがどれ位興味を持って参加してもらえるか楽しみにして報告とさせていただきます。皆さんありがとうございました。



…コカ・コーラ工場見学…

第二日目は北海道コカ・コーラボトリング(株)へ工場見学へ行き、最新鋭の設備を見学しました。圧巻だったのが、大型立体自動倉庫で、2万パレット収容できる国内のコカ・コーラボトラー最大級で、2002年11月に本格稼働しました。約2万棚を有する高さ約31メートルの倉庫棟と荷捌き棟からなる設備となっています。生産ラインからケースコンベアで製品を搬送した後のパレットへの積み付け、異なるパレットへの積み替えケース単位保管設備、生産日及び賞味期限の自動管理、ラック誘導システム等からなっています。

この研修会は、若手経営者がお互いに勉強しあい、経営の問題点や悩みの解決に向けて努力することを目的に実施しています。

(JFMA 経営情報委員：白崎善大)

【日程】

7月13日(木)		
12:30	集合	
13:00	開会あいさつ	

13:15	講義：「100年後でも生き残れる寝具企業の条件3」	まくら(株)社長 河元智行氏
18:30	懇親会	
7月14日(金)		
9:00	北海道コカ・コーラボトリング(株)	
12:30	現地解散	

第15回JFMA研修会参加者名簿

氏名	会社名	役職名
河元 智行	まくら株式会社	代表取締役社長

[参加者]

白崎 善大	白崎繊維工業(株)	専務取締役
白崎 行彦	同	取締役
河上 康孝	同	営業部長
山根 未鈴	同	
白崎 邦彦	同	代表取締役社長
浅黄 敬之	アサギ(株)	代表取締役社長
浅黄 利洋	同	取締役東京支店長
根本 元気	(株)根本	
中條 裕介	(株)コボックス	代表取締役社長
横尾 永子	丸三綿業(株)	取締役
萩原 幸宏	コーワ(株)	代表取締役社長
山本 和夫	東京化セン(株)	代表取締役社長
鈴木伸一郎	同	工場長
遠藤 薫	同	EC 事業部長
川田 和代	同	EC 事業部G長
寺田 昌義	(株)エビス	取締役工場長
和泉 祐幸	同	営業部
石田 裕紀子	木村綿業(株)	専務取締役
大川 幸一	山甚物産(株)	リビング商品部部長
河村 佑太	コドモわた(株)	取締役
西崎 匠	(株)ニシザキ	専務取締役
尾間 哲也	河田フェザー(株)	
金森 秀子	金森(株)	取締役会長
石井 将基	(株)シーケカル	
本多 栄治	本多綿業(株)	専務取締役
只野 悟	J FMA	専務理事
大出 広	日本ふとん協会	事務局

第15次実習生22名入国

当組合の外国人技能実習生受入れ事業は、今年で15年目を迎え第15次技能実習生として中国人7名、7月19日に、7月20日に中国人3名、カンボジア人7名、フィリピン人5名の合計で22名の技能実習生が来日致しました。また、今年度は12月に中国人3名、フィリピン人3名の技能実習生の入国が予定されております。

この15年間で当組合が受入れた技能実習生の延べ人数は582名となりました。

現在、技能実習生を受入れている組合員数は13社、実習生数は76名となっております。

今年度は、外国人技能実習機構が新たに発足し、それに伴う外国人技能実習制度が11月1日に施行されます。当組合は、外国人技能実習機構に許可申請を7月12日に提出し、監理団体として許可されるのを待っています。その後、受入れ組合員の方々に監査訪問時届け度をいただきための書類等の申請の仕方をご案内する予定です。この制度は、評価点方式の為今のところは、監理団体は特定監理団体として申請を提出致しました。その要因は、技能実習生の技能検定3級をどこの組合員も受験したことがない為です。監理団体も優良監理団体目指して、組合員の皆様とともに実習生が5年間働けるよう一致団結していきたいと考えております。

平成30年度の技能実習生受入れ募集は9月から開始し来年、1月の面接を予定しております。面接は、平成29年1月12日～14日を中国・江蘇省、1月23日～25日をフィリピン・セブでの面接を予定。また、カンボジア・プノンペンでの面接は2月8日～11日を予定しております。

外国人技能実習生の受入れをご希望される方、又はお問い合わせは事務局まで。



2017年7月20日開講式

【外国人技能実習生受入れ条件】

- ① JFMAの組合員であること。
- ② 研修生受入れ人数

常勤従業員数	研修生の人数
3人～50人以下	3人
51人以上100人以下	6人

(1年目に3人、2年目に3人、3年目3人という形で受入れた場合、3年目には9人まで可能です。)

※常勤者が、2名の場合は実習生も2名です

【外国人技能実習生受入れに関する問合せ先】

◎組合事務所が10月10日から、下記に移転します。

〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目8番2号

京橋MKビル4階

日本ふとん製造協同組合 (JFMA)

国際交流部会

(電話) 03-6263-2661

(FAX) 03-6263-2660

(E-mail) tadano@futon.or.jp

羽毛ふとんの原産地表示について

〔平成 28 年 12 月 1 日説明会から〕

日本羽毛製品協同組合では、羽毛製品の詰め物原料を正しく表示する為に用語の定義を定めた。更に、JISL0216「羽毛用語」及びJISL1903「羽毛試験方法」の用語と併せて適正に使用することと定めた。

用語	定義	基準	確認方法
羽毛原料産地			
産地名	<p>水鳥を飼育した地域の国及びその地方名を用いる</p> <p>*地方名を用いる場合には、国名と合せて用いること</p> <p>*産卵やふ化した地域は認めない</p> <p>*複数の国名や地域を表す名称はない 例：「ヨーロッパ」、「アフリカ」などはない</p> <p>*産地名に加え「純」「入り」「使い」「混」などを組合せる名称はない</p> <p>例：「純フランス」、「ポーランド産使い」などは用いない</p>	表示の原料 100%使い	飼育地の国名や地方名が記載された書類などによるトレーサビリティの監査、及び科学的分析方法などによる補完
●飼育・摂取方法			
マザー	産卵のために飼育されている水鳥	表示の原料 100%使い	飼育方法が記載された証明書とトレーサビリティ
ハーベスト	<p>水鳥の羽毛生え変わり時期(換羽期)の羽毛摂取方法</p> <p>*同意語：モルティング^gハーベスト、モルトハーベスティング^g molting harvest</p>	表示の原料 100%使い	摂取方法が記載された証明書とトレーサビリティ
マシンピック	水鳥を屠畜後に羽毛を機械で摂取(一般的採取方法)、屠畜後に高品質羽毛を得るため部位別に手で摂取する場合もある		
ハンドピック	<p>生きている水鳥から羽毛を換羽期以外に手で摂取</p> <p>*同意語：ハントブラック、ライブブラック、手摘み</p>	該当する行為の禁止、及び用語の使用禁止	動物福祉に反する不適正な摂取方法であり使用禁止
●羽毛の色			
ホワイト	白色の羽毛	グレー羽毛混入率 1.5%以下	日羽協グレー羽毛混入率試験
ピュアホワイト	ホワイトより色付き(グラックポイント、黒点)羽毛の混入率が少ない白色羽毛	グレー羽毛混入率 0.05%以下	(汚染用)グレースケル「3-4級」以下の色付き羽毛混入)
グレー	<p>ホワイトより色付き羽毛の混入率が多い羽毛</p> <p>*同意語：シルバー</p>	グレー羽毛混入率 1.5%超	
●取種			

ダック	Duck、鴨(かも)、アヒル 原種は、マガモ、ノバリケン	ダック 90%以上使い	日羽協鳥種鑑別試験
グース	Goose、雁(ガン)、ガチョウ 原種は、ハイイロガン、サカツラガン	グース 90%以上使い	
その他の鳥種名	マスコビー、ミューラーなどの鳥種、及び交配種など	表示の原料 100%使い	鳥種名が記載された証明書とト レーサビリティ
●精毛・加工方法			
原羽毛	精製処理をしていない羽毛 同意語：組毛、original、pre=washed、 Pre=feathers、rawdown、raw feathers		JIS L0216「羽毛用語」
精製羽毛	精製処理をした羽毛 精製工程：除塵→洗浄→脱水→高温 乾燥・殺菌→冷却→除塵(選別)収納 同意語：washed down、washed feathers		JIS L0216「羽毛用語」
国内洗浄	日本国内での精製加工		
パワーアップ	圧縮された羽毛原料のかさ高を還元させる加工で、精 製工程の洗浄効果は、得られない		
手選別	精製羽毛から手でダウンとフェザーを選別し高品質羽毛 を得る（高混率ダウンやスティッキーダウンなど）		
●その他			
ダウンパワー	羽毛のかさ高を表す単位：一定荷重の本で1g当たりの 立法センチ体積(cm ³ /g)	日羽協のゴールドラベル は、表示基準が決められて いる	JIS L 1903 羽毛試験方法
フィルパワー	羽毛のかさ高性を表す単位：一定荷重の下で30g当 たりの立方インチ体積(in ³ /30g) 注意：2013年w/s(oz) 当たりの立方インチ体積(in ³ /oz)から 新単位(in ³ /30g)に改定された		IDFB 試験方法 Part 10-B
羽毛ふとん	ダウンが、50%以上のもの		JBA ふとん品質表示規程
羽根ふとん	ダウンが、50%以下のもの		JBA ふとん品質表示規程

●羽毛原料情報(産地・品種など)の表示方法(リーフレットや下げ札などの表示)

*原料情報は、「品質表示」の組成混用率(ダウン%/フェザー%)の事項と明確に区別する事

*原料情報の表示に国名、地方名、飼育方法、摂取方法などの用語を用いる場合は、それぞれを証明する原産地書類がある
こと

*原料上の表示方法は、産地、品種、ダウンまたはフェザーについて、必要な用語を下記の順序で用いること

産地名(国名・地方名)+品種(色・摂取・鳥種)+(ダウン/フェザー)+「スペース」又は、「・」などで区切る+組成混率用

例：① フランスホワイトダックダウン ダウン90%/フェザー10%

② フランスホワイトダック ダウン90%/フェザー10%

③ ポーランドマズーリホワイトグース・ダウン93%/フェザー7%

統 計 資 料

繊維統計

2017年1～6月のふとん生産量
161万枚、0.6%減少

ふとん生産量の推移 (単位：千枚、%)

年 別	掛 け	敷 き	こたつ	羽 毛	合 計
07年	1,529 79.0	2,341 82.3	279 54.5	1,735 88.4	5,884 81.1
08年	960 62.8	1,811 77.4	281 100.7	1,722 99.3	4,775 81.2
09年	973 101.4	1,762 97.3	259 92.2	1,758 102.1	4,753 99.5
10年	978 100.5	1,710 97.0	237 91.5	1,659 94.4	4,583 96.4
11年	893 91.6	1,744 102.3	201 79.4	1,561 93.9	4,399 96.1
12年	813 91.0	1,661 95.2	161 80.1	1,382 88.5	4,017 91.3
13年	759 93.4	1,482 89.2	138 85.7	1,328 96.1	3,706 92.3
14年	791 104.2	1,598 107.8	160 115.9	1,296 97.6	3,844 103.7
15年	754 95.3	1,551 97.1	112 60.0	1,214 93.7	3,631 94.5
16年	717 95.0	1,480 95.5	99 88.2	1,305 107.6	3,601 99.2
17年 1～6月	340 95.2	674 91.5	17 140.0	530 105.0	1,561 96.9
17年 1～3月	169 90.4	367 92.9	3 70.0	297 99.7	836 94.6
17年 4～6月	171 100.6	307 89.3	14 75.0	233 112.6	725 99.7

上段は数量、下段は前年比 (経済産業省・繊維統計)

貿易統計

2017年1～7月の輸入数量
786万枚、22.6%増加

合繊ふとんの輸入実績 (単位：千枚、百万円、%)

年 別		中 国	その他	合 計
15年	数量	13,352 (96.2)	838 (134.3)	14,190 (97.9)
	金額	26,097 (105.3)	2,898 (134.5)	28,995 (107.6)
16年	数量	14,301 (107.1)	736 (87.8)	15,037 (106.0)
	金額	22,867 (87.6)	2,145 (74.0)	25,012 (86.3)
17年 1～7 月	数量	7,561 (124.4)	300 (93.2)	7,861 (122.6)
	金額	11,315 (116.2)	738 (74.6)	12,053 (112.4)

(貿易統計)

2017年1～7月の輸入数量
177万枚、34.4%増加

羽毛ふとんの輸入実績 (単位：千枚、百万円、%)

年 別		中 国	その他	合 計
15年	数量	1,649 (104.1)	246 (89.1)	1,895 (101.9)
	金額	7,265 (101.1)	1,903 (86.4)	9,168 (97.7)
16年	数量	2,032 (123.2)	208 (84.6)	2,240 (118.2)
	金額	6,846 (94.2)	1,112 (58.4)	7,958 (86.8)
17年 1～7 月	数量	1,723 (136.6)	51 (86.4)	1,774 (134.4)
	金額	4,465 (129.7)	262 (71.4)	4,727 (124.1)

(貿易統計)

[JFMA情報は再生紙を使用しています。]